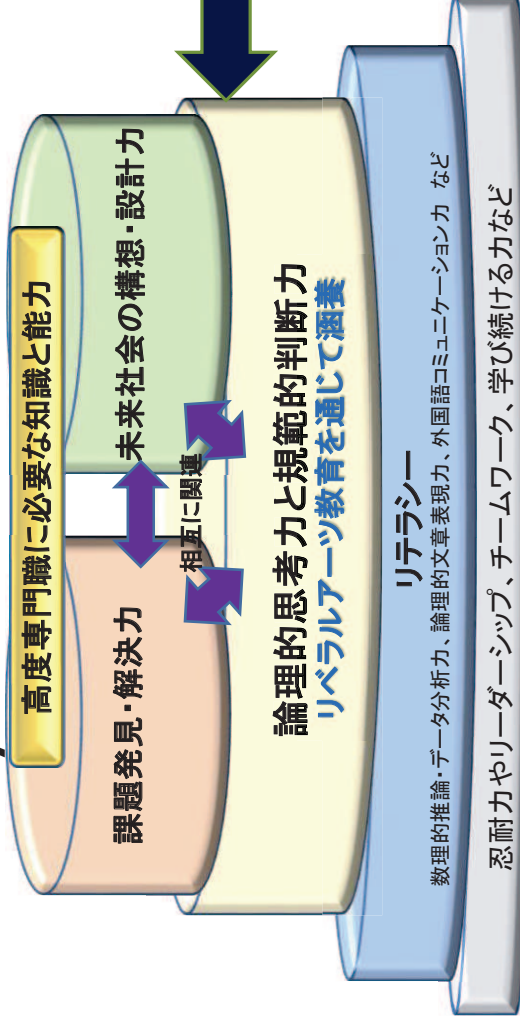


# 資料 4-1 「人」の変革に資する大学教育と今後の採用のあり方

採用と大学教育の未来に関する産学協議会「中間とりまとめと共同提言」(4/22)

## 1. Society 5.0時代の人材に求められる能力



- 最終的な専門分野が文系・理系であることを問わず、リテラシー(数理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーション力など)や論理的思考力と規範的判斷力をベースに社会システムを構想・設計する力、それらの基盤となるリベラルアーツ教育が必要
- 初等中等教育からそうした能力の育成を始めるとともに、大学院レベルまでの教育を重視すべき
- 社会人リカレント教育の拡充が必要

## 2. 企業における採用・処遇のあり方

- ✓ 今後は新卒一括(メンバーシップ型)採用からジョブ型雇用も念頭に置いた採用も含め、複線的で多様な採用・雇用形態に秩序をもって移行すべき
- ✓ 今後、企業は卒業・学位取得に至る全体の成果を重視するとともに、大学は卒業要件の厳格化を徹底すべき
- ✓ インターンシップの目的、意義、内容、期間等について、産学および社会的な共通認識の確立が必要

## 3. 政府への要望事項の例

- ① 文理融合教育のための大学設置基準および認証評価制度の見直しの迅速化
- ② AI、数理統計、データサイエンス人材育成に向けた措置
  - ・ AI、数理・データサイエンス学部の新設の政策的推進(例：23区定員規制の例外扱い)
  - ・ 統計学を教えられる専門人材の育成
- ③ 大学への寄附促進に向けた税制措置(仮称：大学納税制度)
- ④ 地方創生事業の継続的推進(例：COC+事業の継続)